

ASCP International の受験に向けて

◎松尾 英将¹⁾

京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻¹⁾

本講演では ASCP International(ASCPⁱ)の受験に必要な手続き、受験対策、試験の様子を紹介する。また資格取得によるメリットについても触れたい。なお、以下の情報は 2023 年時点であり随時更新されるため、受験時には最新情報を ASCP ホームページ(<https://www.ascp.org/>)で参照していただきたい。

【ASCPⁱの受験に必要な手続き】

まずは受験したい ASCPⁱ 資格の種類を選択する。ASCPⁱ 資格取得者はその大多数が臨床検査全般をカバーする資格：International Medical Laboratory Scientist, MLS(ASCPⁱ)を取得している。そこで以下では主に本資格を想定して説明するが、手続きは資格間で大きく変わりはない。受験する資格が決定すれば ASCP ホームページの受験者用ガイドラインに記載の受験資格要件(ルート)から、適したものを選択する。既に日本の臨床検査技師資格を持つ方の場合、ルート 1 でほぼ問題ないと思われる。次にホームページ上で受験申請を行い、受験料(MLS(ASCPⁱ)の場合、\$210)を支払う。その後、英文の学位記や履修証明書などを準備する。書類が揃えば ASCP が認めた評価機関へ送り、内容が米国の基準を満たしているか第三者評価を受ける。評価結果は ASCP に直接送付され、ASCP での審査もクリアした場合は受験案内がメールにて通知される。

【ASCPⁱの受験対策】

MLS(ASCPⁱ)の試験は英語で出題され、臨床生理学や医用工学、病理組織細胞学は試験範囲外である点の特徴である。それ以外の内容は日本の国家試験と大きな違いはないが、実際の検査室で起こりうる事象を扱った設問が多い印象である。日本の臨床検査技師国家試験を経て臨床で働く方にとっては、日米の試験の違いについて興味を持てると思われる、ぜひ問題を眺めてみていただきたい。受験対策としては ASCP より出版されている問題集の学習が有効である。現在、MLS(ASCPⁱ)対策の最新の問題集としては BOC Study Guide 7th Edition: MLS-MLT Clinical Laboratory Examination がある。他にも ASCP によるオンライン模擬試験(有償)も存在する。

【ASCPⁱの試験について】

試験を受ける際には、テストセンターの運営組織：Pearson VUE のウェブサイトで、受験者の都合に合わせて会場と日時を予約する。ASCPⁱ 試験は日本では東京もしくは大阪のテストセンターで受験可能である。試験はコンピューター上で行い、問題の正誤に応じて次の問題の難易度が変わるシステムとなっており興味深い。最終的なスコアは問題の正解・不正解と難易度に基づいて算出される。MLS(ASCPⁱ)試験の最高点は 999 点、合格最低点は 400 点、合格率は 50%程度である。試験終了直後に、暫定的な合否判定が表示される。また後日、ASCP からスコアレポートがメールで送付され、合格者には証明書が郵送される。

【ASCPⁱ資格取得のメリット】

本資格の取得は臨床検査の専門家として国際的に通用する証明につながり、米国などでの就労への道が開かれる。また、日本国内にいながら臨床検査領域の実用的な英語を習得する効率的な手段となる。やはり資格取得という目標があると学習効果が上がりやすいのは事実である。私が本資格取得を目指したのは、日米の資格制度の違いへの単純な興味からであった。想定外の収穫として、臨床検査技師養成校の中にも海外留学や現地での就労に関心のある学生がおり相談に乗れる点、ASCPⁱ 資格が国内外の検査室や教育研究機関で活躍されている方々との交流のきっかけとなっている点である。このように、海外で就労しなくても資格取得のメリットは大きく、一人でも多くの方に関心を持っていただければ幸いである。

(連絡先：075-751-3938)